
キミタチへ

僕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミタチへ

【ZZマーク】

Z5994A

【作者名】

偉

【あらすじ】

キミタチを見守ってきた“俺”は最近思つたんだ。それでいいのか?...と…

(前書き)

大変読みにくい話になつてます、すみません

キミタチが住んでいる世界とはちよつと違った空間で俺は暮らしている。

同じじみた呼吸をして同じ時間を生きている。

キミタチと違うところは寿命が長こと。長く聞くキミタチを見守つてきた。

俺の住む空間は“電波”が飛び交つていてちょっとスリリングな所なんだが、最近その“電波”で手紙が送れるようになつたんだよな？

「頑張った、頑張ったね～キミタチ」

長く見守つて来た者として、文明の進化に拍手を贈る。

俺の仕事はキミタチを見守ること。だから結構暇があつて、たまに飛んでくる“電波”を拝見せもらつてるけど、

「みんなそれでいいのかい？」

つて内容もしばしば。大事な事は口に出さなきや、心は伝わらないよ？

仕事の一環で今日はキミタチに繁華街つて呼ばれてる街に来てる。寂しいね、寂しそう。やこの女子、キミの純情を捨てて何をしようとしてる？純情と引き替えにもうらえるひとときの快樂は、キミ

に何を残す？

そこのオヤジ、キミはなんでそんなに途方に暮れてる？まだまだキミが背負わなきゃいけない世の中、希望を枯らしちゃ何にもなんない。

ある人なんて自分が弱い者なのをいい事に、ルールを盾に自分勝手な意見を押し付けている。

それはちょっと理不尽過ぎではないか？ルールも例外だつてあるのに、自分の事しか考えてないよつじや、何の為のルールなのかわからりやしない。

キミタチ、文明の進化にのまれるあまりに大事なもの忘れてるね。流行りに捕われて自分を見失ってる。

自分勝手に考えすぎてる。

俺の空間に比べりやキミタチは幸せなんだぜ？色々なものが溢れて、幸せになるも不幸になるのもキミタチ次第。

そんなんじゃダメだとどつかのロックンローラーも必死に歌うんだけど、誰も気付かない。墮ちるところまで墮ちてから気付いても遅いんだよ。もつと周りを見て、自分ばかりじゃダメだ。

飛び交う“電波”にのせた言葉から、空を仰ぐその姿から、俺はキミタチからのSOSを感じる。

さて、SOSを受け取ったからには俺も一肌脱げつかね？見守るだけじゃ危なつかしいキミタチ。

これからどうしようか？助けてやつてもいいが、どう行くか行かな

いかはキミタチ次第だし、何よりキミタチ自身の力で立ち直らないと、意味はない。

「ん~っ…」

よし俺は最後まで見守つてやる。でもたまにはヒントをやるから、ちょっとはあがけよ？ただ今の時代そう簡単にはいかないみたいだから、覚悟はいるぜ？自分らより“おかしなこと”言つ奴”は平氣で仲間外れする時代だ。

『違う世界ならこより幸せなのかな？』

俺の空間の方がいいつていうなら大きな間違いだからな。キミタチはそこで生を受けたから、その空間で生きなきゃいけない。幸せもそこで見つけないといけない。

逃げたくても逃げれない現実だ。

本当のキミタチはつまずいても、また頑張ろつとする素晴らしい生き物だ。一つの絶対的な目的が見つかれば道端に咲く花のよう、詰まれてもまた咲こうとする。

「だから見守ることを辞めれないのさ」

だから救つてあげだくなる。

だから頑張れ、キミタチ。

「最後まで付き合つぜ、俺が果てるまで。俺が果てる頃には、キミタチはキミタチの力で最高の世界にたどり着けるだろうから」

キミタチの手で作り上げた最高の世界にね。

(後書き)

ここまで読んでいただきありがとうございました！

この話（？）は、とある歌手の歌をイメージして書いたため、「なんのこっちゃ？」な内容になってしまいました。しかも曲とはかけながれてるような…。

文中には私個人の思ったこともチラホラ入っています。一個人の考え方として、受け止めいただけたと嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5994a/>

キミタチへ

2010年10月10日00時27分発行